

クラス	Q309	担当教員	山口 智子 (ヤマグチ サトコ)
テーマ	生涯にわたる発達を学ぶー働くことと老いること		
著書・論文 研究課題等	著書『問いからはじめる発達心理学』共著、有斐閣、印刷中 『働く人びとのこころとケア』編著、遠見書房、2014 『老いのこころと寄り添うこころ』編著、遠見書房、2012 『人生の語りの発達臨床心理』単著、ナカニシヤ出版、2004 『はじめての質的研究ー事例から学ぶ (生涯発達編)』共著、東京図書、2007 他 論文「高齢者の回想法：技法からコミュニケーションの回復へ」『ナラティブとケア』4号、2010 研究課題「キャリアデザインとメンタルヘルス」「人生の語り」「面接法を用いた質的研究」		
ゼミナール概要			
キーワード：生涯発達心理学、臨床心理学、キャリア、高齢者、加齢、メンタルヘルス			
目的と内容			
<p>ゼミでは、①主に、成人期や高齢期の心理を学び、生涯にわたる発達について考えることを目的とします。また、②学びや研究を通して、論文を批判的に読む力をつけること、物事を深く考える力をつけること、自分自身の考えを伝える力をつけることを目的とします。具体的な内容は、①働く人びとの心理（キャリア選択、キャリアに関する理論、キャリア発達、ワークライフバランス、職場の人間関係、職務ストレスなど）、②働く人びとのメンタルヘルス問題とその支援、③対人援助職の心理、④高齢者の心理、⑤高齢者の心理的問題とその支援、⑥異世代間交流（たとえば、祖父母と孫の関係性） などです。</p>			
授業計画等			
< 3年次 >			
<p>前期は、テキストを用いて、成人期や高齢期の心理に関する知識を深めます。このとき、単に、テキストを学ぶだけでなく、親や祖父母との関わりなどに関連づけて、メンバーで話し合い、心理学についての理解を深めます。さらに、関心がある領域の研究論文を取り上げて、論文を批判的に読む力を身につけます。</p> <p>後期は、少人数のグループで、調べてみたいテーマを決めて、研究を行います。これらの課題を通して、研究を行う力を身につけて、後期終了時には、各自が4年生で行う卒業研究のテーマを決めていく予定です。</p>			
< 4年次 >			
<p>各自が卒業研究に取り組みます。なお、就職や進学など、各自のめざす進路によって、研究の内容や進め方は異なる可能性があります。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>* 卒業研究は、自分自身がどんなことに興味を持っているのかを明らかにしていく、自己探求の作業でもあります。3年次は、そのための基礎作りです。頑張りましょう！！</p> <p>なお、卒業研究は成人期や高齢期の心理学研究でなくても認められます。学びの過程で、児童期や青年期の心理に関する卒業研究をしたいと思う場合は、自分のテーマを優先してください。応援します。</p> <p>* 担当教員は、心理学の研究には、どちらかといえば（かなり？）厳しいです。できれば、「心理学実験・実習」「心理学研究法演習」などを履修していることを望みます。研究をまとめる、研究力をつけるためには、ゼミに参加するだけでは不十分です。各自が図書館で文献を調べる時間なども必要です。研究に積極的に前向きな人を募集します。</p> <p>* 現在の主な臨床フィールドは産業心理臨床ですが、児童相談所などでの児童臨床、精神科や脳神経外科での医療心理臨床などの経験もあり、ゼミ活動の中で、これらの臨床経験も伝えていきたいと考えています。</p>			